工業外国語 (Foreign Language in Engineering)

担当教員名	(佐藤 徹哉)	
専攻・開講期	電気情報工学科（情報工学コース）　5 年　後期	
単位数・授業の形態	1 単位　　講義	
科目の分類	学科のカリキュラム表	共生システム工学の科目構成表
	専門科目　選択科目	専門工学科目　実務系
科目の概要	英語の基本的な単語や文法は理解されていることを前提に, 論文・特許・規格書等の技術文書や, 身近な商品に関する例文など, 実社会で用いられている例文に多く触れることにより, 国際社会で活動する技術者 (特に電気電子系の技術者) に必要とされる英語力を養成する.	
テキスト (参考文献)	なし, プリントを配布する.	
履修上の注意	英語の基本的な単語や文法は理解されていることを前提とする.	
学習・教育目標	共生システム工学	JABEE 基準 1(1)
	B-1(20%) E-2(80%)	(a)(f)
科目の達成目標	科目の達成目標 (1) 英語の基本的な単語と文法を利用して, 比較的平易な英文を理解できる.(B-1) (2) 電気電子 (エレクトロニクス) 分野で使用されることが多い専門用語や表現を理解できる.(E-2) (3) 多様な英文の速読に慣れて, 英文への抵抗感を減らす.(E-2) (4) 電気電子 (エレクトロニクス) 分野で使用されることが多い英文文書のスタイルや特徴に慣れて, 英文への抵抗感を減らす.(E-2) 目標を達成するためには、授業以外に次の自己学習が必要である. (1) 英語の基本的な単語や文法を復習すること. (2) 授業で学習した専門語用語や表現を復習を通じて身につけるとともに, その他の教科の専門用語も出来るだけ英語で身につける努力を行うこと. (3) 授業中に配布するプリントを活用し多くの英文を読み解く練習をすること.	
目標達成度の評価方法と基準	合格の対象としない欠席条件 (割合)	全授業時間の 1/3 を超えた場合
	定期試験 (50%) と中間試験 (50%) により, 評価が 60%以上に達成したものを合格とする.	
連絡先	tesato@kobe-kosen.ac.jp	

授業の計画・内容
第 1 週　授業全般説明, 種々の英語を学ぶ 1(論文) 授業全般説明の後, 英文論文の基本形式および英文論文で使用される英語を学ぶ
第 2 週　種々の英語を学ぶ 2(国際学会) 国際学会で使用される英語を学ぶ
第 3 週　種々の英語を学ぶ 3(数式や回路) 数式や回路表現, プログラムなど, エレクトロニクス分野で用いられる英語を学ぶ
第 4 週　種々の英語を学ぶ 4(技術ミーティング) 海外企業との技術打ち合わせで使用される英語を学ぶ
第 5 週　種々の英語を学ぶ 5(英文議事録) 英文議事録の書き方, および議事録で使用される英語を学ぶ
第 6 週　種々の英語を学ぶ 6(共同開発実務) 英文機密保持契約書やライセンス契約書を例として, 海外企業との共同開発で使用される英語を学ぶ
第 7 週　まとめと日常の自習方法のヒント 身近なものを利用して英語力を向上させる自習方法について説明する, 加えてこれまでに学んだ事柄の復習も行う
第 8 週　中間試験 第 1 週から第 7 週の授業内容に関する試験を行う
第 9 週　中間試験解答および復習 試験の解答を行い, 第 1 週から第 7 週の授業内容の復習を行う
第 10 週　種々の英語を学ぶ 7(米国特許) 米国特許公報の基本形式および米国特許公報で使用される英語を学ぶ
第 11 週　種々の英語を学ぶ 8(エレクトロニクス製品カタログ) 身近な電器製品としてデジタルカメラを取り上げ, 商品特長の訴求方法などのカタログで使用される英語を学ぶ
第 12 週　種々の英語を学ぶ 9(エレクトロニクス製品マニュアル) 身近な電器製品としてデジタルカメラを取り上げ, 操作方法の説明など, 取扱説明書 (ユーザマニュアル) で使用される英語を学ぶ
第 13 週　種々の英語を学ぶ 10(エレクトロニクス製品保証書) 身近な電器製品としてデジタルカメラを取り上げ, 保証適用期間や対象, 条件など, 保証書で使用される英語を学ぶ
第 14 週　種々の英語を学ぶ 11(規格書) 身近な規格としてデジタルカメラの画像ファイルとして広く普及している Exif 規格を例として, 規格書で使用される英語を学ぶ
第 15 週　まとめと日常の自習方法のヒント 身近なものを利用して英語力を向上させる自習方法について説明する, 加えてこれまでに学んだ事柄の復習も行う
期末試験